

5-8			
主題	公共交通機関による外出行事について		
副題	電車に乗って行こうよ！		
キーワード1	外出援助	キーワード2	研究期間 20 ヶ月
法人名	社会福祉法人 ウエルガーデン		
事業所名	ウエルガーデン伊興園（特別養護老人ホーム）		
発表者：竹内孝徳 宮野茉莉子	アドバイザー：杉本浩司（すぎもところじ）		
共同研究者：片岡 裕司 田嶋 一行			
電 話	03-5838-1500	FAX	03-5838-1501
今回発表の事業所やサービスの紹介	ウエルガーデン伊興園は足立区伊興に平成13年に開設した従来型特別養護老人ホームです。特別養護老人ホーム130名・短期入所生活介護26名、通所介護（認知症対応型含む）、訪問介護、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターが併設している施設です。		

《1. 研究前の状況と課題》

外出行事は、ご利用者が外出で望む場所を話せる方が少ないので職員が場所を決め、施設車両を使う企画を立てる事が基本であった。しかし在宅サービスの送迎や病院受診等、他業務で車両を使う事や道路渋滞を考慮した車両の時間制限もあり、外出時間が短くなってしまっていた。

ご利用者から『昔みたいに電車に乗って浅草寺に行きたい』というニーズが出て、本来、自分の行きたい所に行くことは普通の事であるにも関わらず、外出先を職員が当たり前に決めていることのおかしさに気付いた。望む場所の外出先を話せる方もそうでない方も望む場所の外出先を引き出し、外出する事が課題となった。

《2. 研究の目的ならびに仮説》

【研究の目的】

職員が場所を決めるのではなく、ご利用者

が望んでいる場所への外出行事を企画し、施設車両ではない公共交通機関を利用する。公共交通機関を利用する事で他者との関わりもでき、外出時間を延ばせる事が出来るのでご利用者が外出を楽しむ事が出来る。

【仮説】

ご利用者が外出で望む場所を話せる方は少ない事が予想出来る。それ以外の方の外出の望む場所を引き出すには生活歴、会話、ご家族からの情報を参考すれば可能である。公共交通機関はバリアフリーの整備が出来ており、電車であれば改札からホームはエレベーターを利用する事が可能である。エレベーターがない場所でも階段に車椅子用階段昇降機が殆どの場所に取り付けられており、車椅子でも問題なく利用出来るようになっている。施設車両でない公共交通機関を利用する事で施設では感じられない刺激や緊張感が得られる事と施設職員以外の人との関わりを持つ事が出来る。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・対象者 : 特別養護老人ホーム入居者
短期入所生活介護利用者
- ・期間 : 平成26年1月～現在
- ・職員構成 : 介護職員・生活相談員・看護師・
管理栄養士

- ①日常生活の会話、生活歴、ご家族からの情報提供からご利用者の意向を引出す。
- ②ご利用者が望まれる外出先を抽出した後、
外出先を決定しご利用者の身体状態で公共交通機関を利用しての外出が可能かの検討をする。
- ③外出先が公共交通機関を利用して行く事が
可能かをインターネットで確認する。必要に
応じ電話にて確認する。
- ④ご家族に電話連絡をし、外出についての説明とご家族も参加をされるかの確認をする。
- ⑤外出の決定・実行・外出後の反省会

《4. 取り組みの結果》

話す事が出来ないご利用者でも日常生活の会話、生活歴、ご家族からの情報提供で望む場所の外出先を引き出す事は出来た。

公共交通機関を利用しての外出を行った結果、車両予約をする必要がない為、外出予定日に急遽車両の利用が出来ない事や施設の都合で短い時間でしか車両が使えないため近場に変更といった問題は無くなった。

電車を利用する事でご利用者の変化が見られた。乗車中に周りに遠慮しながらもこっそりと電車内の風景を話す方。普段立ち上がりも無く車椅子上で静かに過ごしている方が「車椅子は邪魔になるから、そこの席に座るから車椅子たたんでよ」と話す方。「昔見たいにつり革につかまって立ちたいな」と話す方等の変化があった。

これまで既往歴に高血圧や心疾患の方も参加してきたが、普段から看護師、相談員、管理栄養士と連携し、体調管理をしているので外出先で体調不良や事故などは一度もない。

又、日常生活の中で、ご利用者がTV等を見て「ここに行ってみたい」「昔行った事ある」という声も多くなり、「昔みたいに自分の足で歩いて行きたい」という声からリハビリ意欲も高まり、積極的に参加する方も多くなった。

更に、外出だけではなくご利用者の意向によって一泊旅行も実現する事が出来た。

《5. 考察、まとめ》

当施設では当たり前の生活を実行する事、ご利用者のわがままを引き出す事を実践している。施設車両での外出ではなく、当たり前の生活として普通に電車やバスに乗り、ご利用者の行きたい所に行く事、この取組も継続していく。本研究を始めてからご利用者の外出希望が強く聞かれるようになっており、外出する為にご利用者が健康面に留意し、リハビリ意欲やそれに伴い食事形態を見直すことで摂取栄養量も上がっており、本人の意欲変化に繋がっている。

今後も本研究を継続していく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

研究発表を行うに当たり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では個人情報を使用しない事、それにより不利益を被る事はない事を説明し回答をもって同意を得た事とした。

《7. 参考文献》

なし

《8. 提案と発信》

将来的に、介護保険施設で公共交通機関を利用して外出する事が一般的となり、外出先でご利用者間の交流の場が増え、施設間で合同の外出行事の企画が出来れば自立支援への更なる一歩となる。